

# どんなに虐待されても親を求める理由（試案）

～～～「どんな良い施設よりも悪い親を選ぶ」わけ

「親の愛情が、あきらめきれない状態」であると推測します。しかし虐待を繰り返す親自体が、病んでいる場合もあるのです。「(親に)愛情がない」ことを、理解し納得した時、自立できます。

## 愛情があるはずと信じている

親が虐待するけれども、「(親は)本当は愛情があるんだ」と、信じています。「親の愛情は薄くて浅い」のですが、「子どもの愛情のほうが、はるかに厚くて深い」のです。それでも、何度か試し確かめるうちに、「(親の)愛情の無さ」が確信されるまで、(あきらめきれない)葛藤は、続きますが、親と決別します。

## 元農水事務次官の長男殺害

「子ども自身は愛情を持っているはず」という希望と、「社会的立場のある親の世間体・プライド」の葛藤の結末。子どもへの愛情を捨てきれなかった親のかなしみ。

## リストカットとの違い

「伝えたいことが、上手く伝えられない」時にする自傷行為。「知っていてほしい気持ち」とともに、「自分を責めて」いる。他人を愛する気持ちが強すぎるゆえに。

## ストーカーとの違い

「一方的」な恋愛感情を持つが、「相手の気持ちがそこにはない」という事実が、受け入れられない。「時間」・「金」・「体力」があるうちに見られる愚行。恋は追いかけてはいけない。

## パチンコ依存症との違い

「時々、球を出してくれるはず」という、性善説的「思い込み」。「ギャンブル」という定置網（仕組み）があれば、一定数の魚は必ず掛かる。パチンコ設置台数世界一の日本の、愚民政策の被害者。

皆さまは、どう判断されますか？

